△アバプロ錠・◎イルベタン錠，○イルベサルタン錠　［内］

【重要度】　【一般製剤名】イルベサルタン（U）　Irbesartan　【分類】アンジオテンシンII受容体拮抗薬
【単位】△50mg［アバプロ］・◎100mg［イルベタン］・▼200mg/錠
【常用量】50～100mg/日［最大200mg］
【用法】1日1回
【透析患者への投与方法】減量の必要はないが，少量から開始（1）
【その他の報告】減量の必要なし（12）50～100mg/日12週で血圧の低下とLDL-Cの低下が認められた（Onishi A, et al: Int J Gen Med 6: 405-11, 2013）
【保存期CKD患者への投与方法】体内動態への腎機能障害の影響は認められないため減量の必要はないが，少量から開始（1）
【その他の報告】腎機能によって体内動態は影響されない（Sica DA, et al: Clin Pharmacol Ther 62: 610-8, 1997）
減量の必要なし（12, Marino MR, et al: J Cardiovasc Pharmacol 40: 112-22, 2002）腎機能障害のある患者にNSAIDsとの併用は，さらに腎機能が悪化する可能性があるため併用注意（1）腎機能の悪化や高K血症を監視する（12）
【特徴】ビフェニルテトラゾール系AT1選択的受容体競合拮抗薬．AT2受容体の8500倍以上高い選択性がある．
【主な副作用・毒性】血管浮腫，高K血症，ショック，腎不全，肝障害，低血糖，横紋筋融解症，血球減少，消化器症状，めまい，味覚障害など
【モニターすべき項目】血圧，腎機能，肝機能，血清カリウム
【吸収】食事によりtmaxはやや延長する（1）
【F】61～88%（1）60～80%（U, Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）食事に影響されない（U）
【tmax】1.5～3hr（1）
【代謝】主にCYP2C9による酸化（水酸化）およびグルクロン酸抱合により代謝される（1,U）主代謝物はグルクロン酸抱合体で活性はない．酸化体もおそらく活性はない（U）肝硬変患者でも体内動態への影響は少なく投与量調節は不要と思われる（Marino MR, et al: J Clin Pharmacol 38: 347-56, 1998）肝抽出比0.2（Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）血中では80%が未変化体として存在（Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）
【排泄】尿中未変化体排泄率5%未満（12）主に胆汁中に排泄され糞便中回収率65%［iv，168hrまで］（1）代謝物として尿中に20%排泄され，尿中未変化体排泄率は2～5%（1）糞便中への排泄率は54%で，未変化体としては16%［po］（1）尿中回収率20%（U, Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）
【CL】全身CL 157mL/min，腎CL 3mL/min（Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）
【t1/2】10～23hr（1）11～15hr（U）13hr（12）13～16hr（Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）
【蛋白結合率】96.6±1.0%［Alb］（1）90%（12）
【Vd】55L/man（1）0.72L/kg（12）53～93L/man（U, Vachharajani NN, et al: J Clin Pharmacol 38: 702-7, 1998）わずかにBBBや胎盤を通過（U）
【MW】428.5
【透析性】除去されない（1,U, Sica DA, et al: Clin Pharmacol Ther 62: 610-8, 1997）
【O/W係数】10.1［1-オクタノール/水系，pH7.4］（1）
【相互作用】CYP2C9を介する相互作用が発現する可能性があるが，臨床的に問題となる強度で発現するものは報告されていない（U）NSAIDs：降圧作用減弱のおそれ（1）DM患者ではアリスキレンとの併用禁忌（1）アリスキレンとの併用は腎機能障害，高K血症，低血圧のリスクから慎重投与（1）GFR 60mL/min/1.73m2未満の患者ではアリスキレンとの併用は原則避ける（1）
【更新日】20240530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。